

妊孕性（妊娠しうる可能性）温存療法について

がん治療の進歩により、治療後の生活の質の重要性が認識されるようになってきました。手術、薬物療法や放射線治療を行うと、妊孕性（妊娠しうる可能性）が低下あるいは失われてしまい、治療後に子どもを授かることが難しくなる場合があります。

近年不妊治療の技術を応用して、がん治療の前に、卵子や精子、受精卵、卵巣凍結を行い、がん治療後にこれらを用いて妊娠・出産を目指す治療法が行われるようになりました。

現在、当院では実施しておりませんので専門の施設を必要に応じて紹介させていただきます。また婦人科では子宮卵巣にがんができた場合、十分な説明と同意の下、該当臓器を温存することがあります。当院でもガイドラインに則して施行しておりますので、主治医と十分に相談されてください。